

## 会議の概要

会議名	平成25年度 宝塚市食育推進会議 第1回 会議
開催日時	平成25年(2013年)9月20日(金)午後2時~午後4時15分
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
出席委員	保田委員、藤田委員、河内委員、北山委員、藤野委員、小東委員、山本委員、福永委員、橘委員、栗本委員、近久委員、田中委員(13名)
欠席委員	山下委員、後藤委員、岡本委員、栗井委員、林委員
傍聴者数	なし
公開の可否	公開
	<p>1 開会  (1) 事務局あいさつ  (2) 委員交代による新委員の紹介</p> <p>2 議題  (1) 平成25年度たからづか食育フェアの実施報告について  (2) 平成24年度市で取り組む食育に関する事業の実施状況について  (3) 平成25年度市で取り組む食育に関する事業について  ・こども版食育推進計画(案)  ・市内で食育に取り組む団体を対象にした研修会・情報交換会</p>
	<p>(1) 平成25年度たからづか食育フェアの実施報告について</p>
	<p>・事務局より、資料1「たからづか食育フェア」に基づき報告した。</p> <p>(委員)  同じ場所ではなく、市内いろいろな場所で開催すれば、いろいろな方に参加していただけるのではないかと思います。</p> <p>(委員)  昨年度は、場所の都合で講師の話が聞こえにくかったが、今回は講演の部屋が別になっており、しっかり聞いてよかった。</p> <p>(会長)  印象に残った催しの中に、講演会という選択肢は入ってなかったのか?</p> <p>(事務局)  食育フェアのアンケートは、午前中の催しであるクイズラリーの回答用紙の裏面を利用して行った。そのため、アンケート結果には、午後</p>

開催した講演会が入っていない。

(会長)

講演会が、評価の対象外というのは残念だ。講演会は、自らの食を点検する効果を期待するものとして開催しているので、評価した方がよい。

(委員)

市民啓発に向けての課題として、学校給食ばかりでなく、本当の意味での食育を考えてほしい。学校給食は、市も力を入れており、成果も出ている。講演会に若い方に来てもらう必要がある。

(会長)

小さい子どもがいる家庭の日曜日の食事の内容を把握しているか？

全てとは言わないが、酷い食事をしている人が多いとすれば、市民啓発に向けてどのようなフェアをすればよいか分かる。ぜひ検討いただきたい。

(委員)

私も子どもを連れて参加したが、小さい子どもにとっては、学校給食が印象的であったようだ。展示物は、分かりにくいところがあったのかもしれない。今回で言うと、フードマイレージというのが難しかったので、もう少し分かりやすくしていただければと思う。

(会長)

今年学んだフードマイレージについては、来年のフェアの展示に使わせてもらうなど、検討してみてもどうか。

## (2) 平成24年度市で取り組む食育に関する実施状況について

・事務局より資料2「平成24年度市で取り組む食育に関する実施状況」に基づき説明した。

(会長)

食育とは、本来、親が子どもに生きる力として教える内容なので、最終的に食育の評価は、子どもの意識的かつ実践的変容の度合いが基準となる。

今回された評価の報告は、事業の実施状況についての評価である。事業の実施により、取り組みの効果を生み、本物になるようにしてほしい。

(委員)

家庭の事情により、店屋物やお惣菜で済ませることが多くなった。濃い味付けを好むようになり、自宅で私が調理しても、家族は、口に合わないのか食べないのが現状である。

(会長)

本来は家庭ですべき食育を家庭でできなくなったので、市や学校、各団体で取り組むようになった。たくさんの課題がある。

(委員)

子どもの意識変容が大切だと思う。私自身も子ども向けの事業をしている。事業を実施した直後は、子どもたちの感想などから効果があったと分かるが、効果が継続しているかの後追いができていない。

(会長)

2005年から始まった食育に、一番力を入れているのは、小学校である。しかし、まだ子どもの変容が評価できる状況にない。中学校、高校と進むにつれ、食育の取組が少なくなる。

(委員)

学校の家庭科室の利用頻度が少ない気がする。家庭科の授業が少ないのでは。

(会長)

食育という教科がない中で、食育という授業をしなければならない学校の先生は大変である。小学校の先生は、一生懸命されている。保護者や地域の皆様の応援を受けて、これから子どもがどう変わるか見守っていただきたい。

(委員)

市で取り組む食育に関する実施状況の評価について疑問がある。柱4の事業者における食育推進の中に、生産者と消費者の交流を図るとあるが、実際には図れていない。消費者は買って帰るだけで、どのように作られているのかまでは知らない。

(会長)

今回報告のあった評価は、市が自ら評価したものであり、ひとつの実績であるが、それによってどのような変容がなされたかまで評価できてない。内容はまだまだである。今後、これが本物になるよう頑張っていたきたい。それだけ重い意味がある。

(委員)

行事食の継承について、どんな風に今後取り組んでいくのかお聞かせいただきたい。おせち料理等についても知らない子が多い。

(事務局)

今、宝塚いずみ会に年4回、地域で行事食の料理教室を実施してもらっている。また、学校給食・保育所給食でも行事食を給食に取り入れている。その他の事業を実施する際にも行事食の紹介を合わせて行いたいと考えている。

(委員)

学校給食の中でも行事食を取り入れていただいているが、子ども達か

ら保護者に伝わらないので、事前にレシピを配布していただけたらと思う。

(委員)

学校に求めるのはおかしいのではないか。子どもに行事食を教えるのを学校給食に頼るのはどうかと考える。本当は、家で保護者が教えるものでないのか。

(委員)

給食の献立には、行事食の場合には印が入っている。保護者も前もって予習しておいたらよいのではないか。

(会長)

子どものことが中心になるので、学校関係者が委員として入っていただくことは重要である。PTA代表が委員から抜けられたのは、残念である。この会に、小学校・中学校校長会の代表は入っていないのか。本来、食育は学校関係の話が多いので、正式な中で発言をしてもらえよう委員の中に入れてもらったほうがよい。

(委員)

忙しい方が増え、外食や中食の利用が増えている。家庭で全てを作るのは大変なため、お惣菜を上手に利用した料理教室を最近実施した。時代の流れに沿った料理教室をさせてもらわないといけないと感じている。そうすることで栄養の偏りを少しでも良くしていくことが可能であると思う。

(会長)

惣菜の利用は、現実的なことであるが、これだけは付け加えておきたい。コンビニで手軽に購入できるサラダなどは、表示義務のない次亜塩素酸ソーダなどの添加物がたくさん入っている。わずかな薬物でも長年蓄積されると、本人だけでなく、生まれてくる新しい世代の子ども達にも影響し、それがアトピーの原因にも繋がっていると考えている。

食べざるを得ない部分を認めつつ、基本原則として教えるべきことを事実として教えるというのが本当の食育ではないかと思う。

(委員)

評価の仕方についてだが、誰でも評価できるようなやり方があればよいと思う。多くの事業を実施したという評価でなく、概要版の6つの柱ごとに書かれている行政や関係機関・団体等が連携、支援できることについて言及している文言を活用して、評価の中に入れていくとよいのではないか。庁内の食育推進検討会以外の評価も考えるとよいのではないか。事業を実施した後の効果を見る評価が必要。

(会長)

担当部署は、食育と思って実施していない事業もあるだろう。他市で実施している評価も、数値目標による評価であり、あまり意味はないと

考えている。

(委員)

幼稚園で保健の先生が話された栄養のお話は、子ども達にとっても響いていた。時間が経つと意識しなくなるので、年に数回ずつ全園で実施できたらよいのではないか。

(教育委員会)

幼稚園に養護助教諭が配置されているが、2園に1人である。幼稚園は給食がないので、弁当を食べる時や保護者が来る時に話をする場合がある。一律実施しているのではない。養護助教諭の集まりがあるので、情報交換することによって、よいアイデアがあれば広まっていくと思う。

(会長)

食育は、1歳でも若いうちに行うのがよい。幼稚園・保育園などで積極的にやっていただけたらうれしい。ただ、それを誰が指示するか。尼崎市では、市長の指示で市内の保育所全園で食育に取り組んでおり、今から3年前、かまどでご飯を炊き、保護者に話をするために、全保育園を回らせてもらった。

(委員)

食育は、家庭が基本だと思う。幼稚園で学んだことを家庭でもう一度話し合うことに意味がある。それを学校に頼るのは駄目だと思う。

(会長)

きっかけ作りはしていかないといけない。家庭でなかなかできない。

越前市長からの依頼を受けて、今年度、全17園にかまどでご飯を炊く「ご飯塾」を行う予定である。市長が関心を持ってやる気になれば実施できる。実施した園での評価は高く、子ども達も保育士も勉強になったと喜んでいる。宝塚でも、今後、そのような計画を立てられるのであれば協力する。

(委員)

これまでのこの会議で、幼稚園や中学校で実施した調理実習について報告した。学校の調理室活用に関する要望等、この推進会議で出た活動や取り組みに対する意見は、各部署が持ち帰って反映していただけているのか。実態は一向に変わっていない。

(会長)

教育委員会等、食育関係課は、委員の意見に対し即答する立場で来ていないので、事務局を所管する健康福祉部長が委員の意見を関係部署に伝えていただきたい。学校の調理室の活用についての要望は、健康福祉部長から関係部署へ伝えていただきたい。優先順位の高いものから吟味した上で、一步一步できるところから実現していただきたい。

(3) 平成25年度市で取り組む食育に関する事業について

・事務局より資料3に「平成25年度市で取り組む食育に関する事業」に基づき説明した。

(委員)

子ども版食育推進計画パンフレットについては、小学校5年生対象であれば、これくらいのレベルでよいと思うが、フードマイレージなど社会的問題についても盛り込んではどうか。盛りだくさんになるが。

(会長)

小学5年生になれば、社会的な問題も入れてもよいとのことだが、既にかかなり完成しているので追加するのが難しい。このパンフレットは、どちらかといえば、健康論と生活論に基づいた食べ方に関する啓発資料となっている。

(委員)

盛りだくさんなイメージである。ポイントをしばってもいいのではないか？

(会長)

パンフレットは、どこで検討したのか。「1. 食を取り巻く環境」という表現は、混乱の元になる。環境ではなく食を取り巻く諸問題とした方がよい。われわれのこの会議が今一番取り上げたい食を取り巻く問題は、パンフレットに記載されている「食の安全性の不安」「食品廃棄」「食習慣の乱れ・栄養の偏り」という3つ問題なのか。市民の間では、それらが問題となっているのか。

(委員)

これは、授業で使われるものか。

(事務局)

家に持ち帰ってもらい、家族で見てもらおうものと考えている。

(委員)

お手紙として持って帰るのであれば、持って帰っただけになる。添加物はなぜいけないのか、いろどりを考えて食べるなら何を食べたらよいのかなど、具体的に書かれていないと、家庭では、子ども達に聞かれても説明できない。そこまで書けないなら、もっと簡単な内容にした方がよい。

(委員)

親子のコミュニケーションとして利用されればよいのではないか。

(委員)

それは理想論である。農薬の使用について関心がない保護者が多いの

ではないか。もう少しやさしく分かりやすくする必要があると思う。

(会長)

パンフレットの情報について、受け取り側によっても変わってくるものである。今回は、誤字脱字がなければ、この案で一度作ってみるという考えでどうか。

(委員)

なぜ今食育を勉強しないといけないのか、食育とは何か、ということを表紙に記す必要があるのではないか。食育を勉強しないといけない認識を持たないと聞き流すだけになる。

(委員)

大人が分かっていないので、今の若い世代を責めることはできない。自分の口に入るものは、自分で安全を確かめ、手作りでバランスよく食べようと話しているが、バランスすら理解されていない。お金を出せばどんなものも食べられる時代であるが、健康な体があつてこそ、いろいろなことができる。そのために食べる。そのために、生産者がどんな思いで作っているかを、まず子ども達に伝えていかないといけない。食べることは、元気な自分の体を作るためだということを知ってもらわないといけない。今の若いお母さんも子ども達も食べることの意味、大切さを分かっていない。勉強は元気な体があればいつでもできるのだから、心身ともに健全な体を作るために食べる基本に戻っていかないといけない。いくら協議してよいパンフレットを作っても、読んでももらえないと、意識すらしてもらえない。それでは、絵に描いた餅になってしまうので、子ども達が理解できる範囲のものを作っていかないといけないと思う。本来は家庭でやるべきことだが、こうやって集まっているのだから、もう一度朝食を食べて元気な体を作るという、食べることの大切さを子ども達に伝えていかないといけない。

(会長)

原点に戻ってしまうが、宝塚市の食育推進会議が一番に何を問題にするか。みなさんいろんな意見を持っており、必ずしも共通認識になっていないが、家庭の食の乱れという点を今年度取り上げてやってみようとするのであれば、それに関する内容のパンフレットで十分である。予算があれば、次年度は次年度でまた新しいものを作ればよい。ただ読んでもらえる内容にするためには、なるべく盛りだくさんにしない方がよいというのは事実であると思う。

(事務局)

事務局としては、ご家庭でお父さんお母さんと一緒になって見ていただきたいという思いがあつたが、現実的には難しいこともよく分かった。もう少し内容を吟味するなどその点を変えていきたいと思う。

(会長)

ねらいとしては、5年生を対象に家庭で読んでもらい、会話の材料にするということだと思うが、冒頭に食育と書かれていることがよいかどうか。

(委員)

「食べることは生きること」のような具体的な言葉で呼びかけるというのはどうだろうか？

(会長)

食育という言葉は、「子どもの頃からはじめよう食育」のように小さく埋め込む方がよい。ここでは、副題として具体的内容を謳う方がよい。

子どもに読ませるなら、食育を大きく書くことはない。農薬を使う量が多い作物は健康を損ねてしまう心配があると書いているが、親は答えようがないので、家庭で話題にできないと思う。加工食品であれば、添加物の表示があるので話題になるが、農薬は表示の義務がないので説明ができない。

(委員)

農薬を使う量が多い作物とは何か。何を想定して書かれたのか。

(会長)

子どもがよく食べるもので、日本で一番多く農薬が使われているのは何か知っているか。イチゴである。それは栽培期間が長いからだ。玉葱も栽培期間が長く、農薬の使用が多い。

(委員)

農薬を使わなければ、薬物はどうしても穴があいてしまう。口では農薬を使わない方がよいと言いながら、実際にはきれいな方を選んで買ってしまふ。なぜか。農薬の問題はいろいろあるが、実際に無農薬で作るのは難しい。無農薬と言って販売されているものは、どんなものかと思う。減農薬と言うのであれば納得できるのだが。無農薬は、家庭で食べる程度の量であれば作ることが可能だが、販売するまでの量となると難しいはずである。

(会長)

「加工食品に依存し続ける生活」は、確かに問題が多いので、表現を変えて、「加工度の高くない食品を食べる方がよい」程度の表現の方がよいのではないか。最終的にはみなさんの価値観による。厳格に考えたいが、本日の審議はこれで打ち切りたいと思うが、皆さんパンフレットを作成することについてはよいか。

(委員)

いろんな意見があると思うので、ファックス等で自分の意見や思いを書いてはどうか。



(会長)

取捨選択は事務局に任せるといふことでよいか。発言したい方は、メール又は郵送していただきたい。採用の有無は、事務局に一任で願う。

(委員)

小学校4年生の総合の時間に、調理員による親子の調理実習の開催を決められないか。

(会長)

ここでは決定できないので、ここに出た意見は、健康福祉部長から関係部署に伝えてもらい検討していただく。結果は、次回の推進会議で健康福祉部長又は事務局から回答いただく形でよいか。

(会長)

個人的希望としては、越前市のように幼稚園や保育園を対象にご飯塾をやってほしい。ダイナミックな取り組みをせず、既存の事業を延長するだけでは、子どもの心は変わらない。本当に食育を考えるなら、本当に食育に関係する事業を各部署で実施していただきたい。

・事務局より資料5「市内で食育に取り組む団体等を対象にした研修会・情報交換会の開催」について説明。

(会長)

本日、午前中に県の食育審議会があり、審議会の委員の一人から、各市町食育の取り組み状況を見ると、関係団体と連携して取り組んでいる市町とそうではない市町があり、各市町で、ネットワークづくりが必要なのではないかという意見が出て、県に対し、今後考えるように要望が出された。宝塚市では、率先してネットワーク作りをご提案いただいたので、ぜひ作っていただきたい。

・事務局より

次回の日程について提案。2月21日(金)に決定。

地域の包括連携という形で、甲子園大学で協定を結んだことを報告。

(会長) 解散